2019年度連続公開講座（全3回）

「西周前期の雄篇《大盂鼎》の銘文を読む」

2018年度は、西周時代の金文を前期（第1回）・中期（第２回）・後期（第３回）に分けて、時期毎の特徴をつかみながら読んでいきました。

2019年度は、前期の代表的な青銅器である《大盂鼎》（だいうてい）の銘文に絞って読んでいきます。長篇なので三回に分けて全篇を読みます。《大盂鼎》は、殷王朝が倒れた後の西周前期も後半に入った頃に作られた青銅器です。この頃すでに殷王朝の亡んだ原因がどこにあったかという、歴史的な反省の語が語られていたことが、《大盂鼎》の銘文から分かります。今回の講義では、歴史の動向や考古学的な知見（特に最近の発掘の動向）も話題として盛り込みながら、読んでいきます。

【開催日程】

第1回　2019年11月23日（土）14：00-16：00　※終了しました

第2回　2020年1月18日（土）14：00-16：00

第3回　2020年2月1日（土）14：00-16：00

※1回から受講いただけます。終了分のレジュメもお渡しできます。

【講師】

高島 敏夫

（立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所・客員研究員）

【会場】

立命館大学衣笠キャンパス　創思館カンファレンスルーム

【備考】

レジュメを配布いたします。

金文を描くための筆記用具（ノート・ペン）を各自持参ください。

【お問合せ】
立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所事務局
TEL：075-465-8306　FAX：075-465-8245
E-MAIL：ro-toyo@st.ritsumei.ac.jp

参加費無料・事前申込不要